

令和5年度 事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

(1) 学校目標

①学校スローガン

その先の未来を創る

— 心から楽しもう 全てやりきろう —

声を大にして自慢できる専門学校武蔵野ファッションカレッジらしさを確立する。

武蔵野らしさとは

- ・お互い協力しあいながら、生き生き仕事ができる学校 の中で
- ・常に新しいことにチャレンジし、自らが成長し続ける教員 がいて
- ・「好き」を現実なものにでき、学校に対する満足度の高い学生 がいる事である。

ひとりひとりがその先の未来を想像し、同じ目標に向かい心から楽しんで現状に立ち向かいやりきることで、学生数を増やすという目標の達成を目指す。

学校目標に対し新たなチャレンジをし続け、地固めができた1年であった。新入生の人数を微々ながら着実に取り戻せたことで、募集活動に対する取り組みの意義を感じることができ、更なる教員のチャレンジと楽しみながら学ぶ学生の居場所を確立できている。

②目標達成のための優先課題と活動概要

a. 教学改革計画

学生の学校満足度向上に努めた。学生同士が学校全体で交流を持つ授業以外の学校行事を運営することができており、学生と距離の近い親切的な指導が力を注いでいる。更に企業と連携した授業展開や卒業生による接客指導を行うなど、時代に沿った授業を進めることができた。また本学の特色としている授業においても委員会活動と並行して行うことで学生の達成感に繋がり、特色である授業の強化の基盤が確立しつつある。

b. 学生募集対策

広報活動への積極的参加を強化する事ができた。SNS での授業風景やイベント内容の発信を継続し高評価を得ていることや、ガイダンスへの教員派遣、出張授業への積極的参加により、高校生の体験入学参加数を増加させることができた。出張授業依頼も増加した。入学案内パンフレット、体験入学リーフレットを教員が制作していることも高校生からの評価に繋がっている。入学者増加につながられた。

c. 人事政策

組織の土台固めは順調である。しかし、教員数に対して授業以外の仕事が多岐にわたっており、仕事量の見極めが必要である。次年度への課題。

d. 経営削減計画

行事運営費用の削減に努めるなど、最大限の削減に努めた。

(2) 教学改革計画

①中期計画に基づく実施計画

学校の強みとする項目を具体的に目に見えるものにするのを継続する。

a. 教員と学生の距離の近い親切的な指導

教員と学生、上級生と下級生の距離を縮め学内を活性化するため授業以外の学校行事を推進してきた。・新入生歓迎会・芸術鑑賞会・体育祭・ハロウィンパーティー・クリスマス会等、教員と学生がワンチームとなり委員会を設定し行事を運営していく体制も整いつつある。授業以外での学生の利点発見にも繋がると共に、学生一人一人の個性を知る事ができた。更には担任以外の教員と自由に関わりを持つことは一人でも多くの大人が自分を見てくれている安心感につながっていると感じる。各行事委員会を設定することで、学年、学科を超えて交流が持てており学生同士の距離も縮まり学校の一体感に繋がっている。笑顔溢れる学校行事を行うことは学生満足度の向上に繋がっている。

既定の授業以外に、アパレル業界で活躍する若手のデザイナーやEC担当、アパレル企業を経て独立をしたデザイナーやスタイリストを講師招き、様々な現場を知る授業を行いファッション業界で働く意識強化を図ることができた。ファッション業界の奥深さを知ることで、未来の自分を想像できる機会となった。

また卒業生を学内審査の審査員として招いた。学生に対し評価だけではなく、細やかな指導までをして頂いた。卒業生から直に指導を頂くことで学生は、新たな緊張感や学習意欲を持つことができた。

b. 特色としている授業の強化

(企業・業界と連携した特色づくり)

クリエイションに特化している企業と連携し、2学科が既存の授業内容の改善を行った。その結果、学習目標が明確となり製作物のクオリティーが増し、発想力や学習意欲の向上に繋がった。

また新たな試みとして企業と連携し、ハレザ池袋での新企画に挑戦した。2週間の作品展示、大型ビジョンでの学校CM放映から最終日のファッションショーに至るまでの運営においては、担当教員が積極的に意見交換を行い取り組んだ。

この企業との取り組みを通して学生1人1人が達成感を味わえるよう、各科の授業に内容を組み込ませることができた。学校全体として組んだ結果、地域との関わりや学校宣伝の大きく貢献できたと考える。更に短期大学に協力を頂くことで学園内での交流を持つことができたのも成果であった。

c. 技術の継承

検討を重ねている。カリキュラム内容の充実と学校行事の定着を進めているため検討のみに留まっている。

d. 卒業生とのつながり

第1回同窓会総会を開催した。同窓会会則の承認、役員決定を行い、次年度の授業計画の提案をした。同窓会後懇親会を行い忌憚のない意見を頂くことができた。同窓会運営に関しては、これからの課題である。

e. ワークショップ運営

学園教職員に対してワークショップを開催した。普段交流することが少ない教職員が物作りを通して楽しさを実感できたのではないかと思う。全ての参加が難しかったが、継続していくことで学園内の交流に繋がる。

3校の学生に対してもワークショップ開催をした。

②カリキュラム改革等

現在のカリキュラム・授業内容を把握し、時代に即した実践教育が行えるよう、現場教員の意見を積極的に取り入れ、昨年度の会議で検討をした内容を今年度実践した。次年度カリキュラム変更の申請を行う。

a. カリキュラム会議の定期開催

昨年度の会議で検討をした内容を今年度実践した。それぞれの学科が実践しながら改善を進めており、学科、学年ごとの意見交換にとどまった。教務部主体で定期的な会議スケジュールを立てるよう検討が必要。

b. 特色としている授業の強化

本校の教育の特色である、期間限定ショップ【インキュベート】は出店場所の検討を行い変更した。昨年の授業運営見直しにより全体的な向上がみられ、担当教員の努力の結果がうかがえる。【インキュベートコレクション】に於いても委員会活動定着に教員全体の努力がうかがえる。本学ならではの特色を持ったコレクション作品が発表できている場が確立できた。【卒業制作発表—総合学園祭—】では各学年の学習成果の発表を、展示、ファッションショー、インスタレーションという形で表現した。会場につながる通路には学生たちの日常をうかがえる写真コラージュで来場者を楽しませ、初の試みである手作りの「ハンドメイドマルシェ」は栄調の学生達との交流の場となった。本学学生の学習成果を、保護者の方にご覧いただくことができ、学校に対する安心感に繋がったのではないかと思う。これから委員会活動も軌道に乗せていきたい。特色のある授業の強化の基盤はできた。

③キャリア支援・就職支援

現状における企業の情報を把握し、就職指導の強化を図る。

a. 授業での就職指導強化

リクルート授業の充実を図った結果、学生の就職に対する動き出しが速くなり内定に結びつけることができた。更に就職担当教員の前向きな努力で学内企業説明会を開催することができた。数社ではあるが縫製工場から募集のお知らせを直接いただき、インターンシップの取り交わしから就職内定に結びつけることができた。国費ではあるが、外国人の学生が日本企業に就職内定を頂けたことは就職指導の強化の成果であると考えている。

b. 就職支援体制の整備

就職担当教員以外にも学生が相談できる環境を整えている。

c. 業界と連携した就職支援

コロナ以前に繋がりがあった企業数社からご連絡をいただき、学内企業説明会を開催することができた。着実に企業とのつながりは進んでいる。

d. 卒業生との連携

卒業後の卒業生が転職相談や、仕事のアドバイスを求め来校する回数が増えた。卒業後の学生に対する支援体制を広めていきたいと考える。

④学生支援・中途退学対策

1人1人との距離感を大切にしながら、教員と学生の距離の近い親切的な指導を行っている。

a. 授業アンケートの有効活用

有効なアンケート活用を行っている。

b. 組織的対応力を強化し中途退学者の抑制

学校全体で取り組んでいる。中途退学者が出ないよう学生支援を行う時間に費やす時間が増えていることで教員の就労時間やメンタルを考えていくことも重要である。しかし今年度は退学者数が多かったため教員会議にて反省・対策を話し合い、次年度につなげていく。

c. 学費未納学生への支援

教員として、適切な指導や相談を行っている。しかし事務局との連携に不備があったため滞ってしまう状況が生じた。次年度の対策に取り組んでいる。

(3) 学生募集対策

① 中期計画に基づく実施計画

広報活動の積極的運営を行った。

a. SNSなどを駆使したプロモーション、教育の視覚化

若手教員を中心とした Instagram における、学生の日常がわかる授業紹介やイベント紹介は好評である。教員全体が協力し合っの投稿はリアルな学校生活を垣間見ることができ在校生にも高評価を得ている。教員の努力のたまものである。

今年度は学生の記録チームが、映像を提供。継続予定。

芸人の YouTube 番組参加。服飾を学ぶ企画に本学教員が協力し、参加をした。本学の認知に繋がることを期待したい。

昨年度より本学の入学案内パンフレット・体験入学リーフレットは教員が製作しており、かなりの経費削減を行うと共に高校生からの高評価を得る事が出来ている。今年度はデザインをリニューアルしより魅力的な入学案内の作成ができた。しかし本来教育が目的の教員が行うことはデメリットもある。次年度は改善を試みたい。

b. ファッション館再構築

準備室の整理を行った。学生数増加のため教室移動を行った。

次年度も教室の有効利用を計画。

② 体験入学・学校説明会等

学校ガイダンス、模擬授業への積極的参加と体験入学や説明会の運営充実を図る。

a. 教員のガイダンス派遣強化

広報部と情報を共有し、教員全体で積極的にガイダンス対応を行った。体験入学参加者数が 27%アップした結果に繋がったと考える。2年生の来校者も増加したため、次年度への効果も見込めるであろう。教員の努力と教員同士の情報の共有、協力体制が実を結んでいる。

しかし、学生数の増加により教員にかなりの負担がかかっている。広報のあり方を検討し、教員がやるべきことと、専門分野である広報局がやるべきことの見極めを進めていく必要がある。

b. 高等学校との信頼関係構築

高校へ直接出向き行う出張授業は、家庭科教員に業界についての話や、上級学校の在り方や位置づけに関しての情報をお伝えすることができる。高校教員からは現在の高校生情報をうかがうことができ、どちらにとっても有意義である。新規依頼が増えたことは、高校教員間での情報共有がされているのではと考える。

c. 体験入学運営の充実

体験実習内容を常に更新し、時代をとらえ高校生に興味を持たせる企画内容で結果を生み出すことができた。接客を学ぶ実体験型授業としての学生スタッフ運営も出来ている。

(4) 外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

学内設備や教員の能力を生かした収益事業の促進

a. 学内ワークショップ開催

学内ワークショップは、学園内の交流を目的としているが、継続していきながら収益事業を目指したが、学内交流の地固めを継続。収益には至らず。

b. 夏休み自由研究のワークショップ開催

衣装製作を手掛ける卒業生が教室を使用し、学生に縫製インターンの授業を試みた。インターンを通し学生の技術向上に繋がる結果となった。授業の一環で行ったため収益には繋がらなかったが、外部にインターンを学内で行うことで教室使用の収益に繋がるのではないかと考えるきっかけとなった。

c. 後藤学園グッズ製作（学園全体）

進捗無し。PTの指導を仰ぐ。

(5) 人事政策

①中期計画に基づく実施計画

居心地の良い学校、職場の確立を目指す。

a. 業務運営の見直しを図る。

教員の科目担当時間に大きな差があるにもかかわらず、クラス担任業務、教務部業務や学生サポート業務を同じように振り分けられていることで不公平を生じている。それらを払拭するため、業務運営の見直しを図りお互いが協力しながら業務を進めたが、組織としての組み立てには至らなかった。次年度への課題である。

②組織編制・要員計画

組織の土台固めは順調である。次年度より中期計画を作成し組織運営を行いたい。有給休暇の取得日数を増やすことはできていない上に、就労時間延長が多くみられ改善策が必要。教員の仕事量の見極めの先決である。

③教職員研修・能力開発

若手教員にガイダンスや模擬授業、体験入学講師を経験させ人材育成を図ることができた。広報活動を担える人材を育成ができています。しかし教員としてのスキルアップに繋がるには至らなかった。

(6) 経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

令和4年度予算を大幅に削減したが、赤字要因を含む的確な分析をおこない更なる経費抑制計画を立て、最大限の経費削減を行った。

a. 外部委託経費の削減

引き続き入学案内、体験入学チラシ制作を教員が行った。かなりの制作費削減に繋がってはいるが、教員の負担権限を実現することができなかった。広報局と相談し、次年度は改めて全体見直しを図る。

b. 教材費改善・見直し

物価高騰により難はあるが、適切な使用をしている。

c. 行事運営費用の見直し

行事運営費用の削減に努めながら、次年度の運営費削減につながる什器の購入にも着手した。

d. 保守点検費用の削減

ミシンなど、機械点検費用の削減に努めている。

(7) 施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

校舎を中心とした安心安全な環境整備を目指し、随時整備を行っている。

②その他の取り組み

a. 校舎老朽化による破損個所の修理

非常階段の使用を禁止している。工事は時期を見計らう。

b. 教室内修繕

できる範囲での修繕を行った。

c. 椅子・机のリニューアル

学生数増加の学科に関しては新規購入を行った。

(8) その他

①社会貢献・地域貢献活動

a. 池袋での作品紹介

池袋にある商業施設ハレザ池袋とのコラボ事業を行った。2週間の展示と展示期間最終日にファッションショーを開催した。池袋の地に広く本学ありと、広くを認知してもらえる結果に繋がった。

②その他の取り組み

a. セクハラ改善計画

真摯に取り組んでいる。

b. 改善計画

- 何気ない日常の声かけで学生に安心感を与える環境作り。
- 個別面談の機会を増やす。(声に出せない学生の胸の内を早期に感じ取るため)
- 問題を抱える学生の保護者と密に連絡を取り双方で問題解決に取り組む。

専門学校はとかく技術・知識が優先されがちだが、実社会では協働での成果が求められる。身につけた技術・知識をいかんなく発揮するには豊かな人間力が必要であると考え。車の両輪で例えるならば片や技術・知識、片や人間力を合わせもち学生一人一人が将来進むべき道が展望できる学校となるよう努めた。